

## サイドイベント詳細

○6月18日（金）18:00-20:00 \*参加無料

### 「バーチャル犯罪学部カリキュラム構想」

概要：

龍谷大学 犯罪学研究センターが提案するウイズ・コロナの時代のICTを活用した犯罪学部のカリキュラム構想について報告。当日は、犯罪学部の目的や開設科目について報告した後、犯罪学、刑事政策、犯罪心理学、犯罪社会学、司法福祉、矯正宗教学などのさまざまなモデル授業を紹介し、いま、犯罪学に求められていることは何か？について、参加者をまじえてディスカッションを行う。

キーワード：犯罪学, ICT 教育, 若手研究者

【詳細・お申込み】 <https://www.ryukoku.ac.jp/nc/event/entry-8486.html>（申込期限：開催当日 17:30）

○6月19日（土）18:00-20:00 \*参加有料（一般1,000円・学生300円）

### 「戦争と犯罪～グアンタナモ収容所で何が起きたのか？そして、いまは？～」

概要：

世界にショックを与えたアメリカのグアンタナモ強制収容所。そこにえん罪で収容された被害者である、モハメドゥ・ウルド・スラヒ(Mohamedou Ould Slahi)氏をオンライン・ゲストにむかえ、インタビューを行う。戦争による人権侵害がなぜ放置されているのか、世界各地で起こっている戦争・紛争、虐殺行為に対して、どのようなアクションを起こしていかなければならないのか、について問題提起する。

キーワード：国際人権, 差別, ステイグマ, 平和と公正, えん罪, 被害者, イスラム

【詳細・お申込み】 <https://www.ryukoku.ac.jp/nc/event/entry-8485.html>（申込期限：6月18日）

○6月20日（日）15:00-18:30 \*参加有料（一般1,000円・学生300円）

### 「課題共有型“えんたく”大麻論争とダイバーシティ（多様性）：薬物使用は、犯罪か？」

概要：

従来、“大麻”のイメージは“逮捕”と強く結びつけられてきた。しかし近年では、医療目的での大麻使用に注目が集まっている。1990年代に人体内の大麻成分“エンドカンナビノイド”が発見されたことに端を発し、2000年以降のCBDと呼ばれる成分の再発見により、世界的な医療大麻合法化へと進展。日本でも、難治てんかん患者に対する特効薬としての期待が集まっている。このような国際的な変化の中で、日本国内では、新たに大麻使用罪を設け、厳罰方針を維持することが検討されている。本イベントは、国内外の大麻情勢をフォローしてきた医師の視点から、医療、経済、政治の動向を概観し、日本のあるべき大麻政策についての提言を行う。

キーワード：薬物依存, 依存症, 医療用大麻, 大麻の合法化, 大麻使用罪, ダイバーシティ

【詳細・お申込み】 <https://www.ryukoku.ac.jp/nc/event/entry-8484.html>（申込期限：6月19日）

○6月21日（月）18:00-20:00 \*参加無料

### 龍谷コンgress「龍谷・刑事政策構想」発表 市民のための刑事政策構想～人に優しい刑事政策をめざして～

概要：

犯罪学研究センターが有する13もの研究ユニットによって、積み重ねられてきた研究成果をとりまとめて「龍谷・刑事政策構想」として発表。社会の防衛という旧来の犯罪学の関心から一歩ふみ出し、科学的知見に基づいた犯罪予防と対人支援に特化する。“つまずき”からの“立ち直り”をキーワードに、新しい学融領域「人に優しい犯罪学」を提言する。また、日常生活におけるさまざまな悩みや不安、そして加害・被害の問題に対して、犯罪学はどのような解決策を提示できるのか、社会福祉の向上を目標とする市民参加型のまちづくりの可能性について、多種多様な方々にご参加いただき、意見交換の場をもうけたい。

キーワード：刑事政策, 対人支援, 科学的根拠, エビデンス・ベスト・ポリシー・メイキング, 社会福祉

【詳細・お申込み】 <https://www.ryukoku.ac.jp/nc/event/entry-8487.html>（申込期限：開催当日 17:30）